

【令和 8 年度 美術科授業改善推進プラン】

美術科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・造形を捉える多様な視点もち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができる。
- ・発想や構想と鑑賞の双方に働く中心となる考えを理解し、それと関連させながら考え、判断し、表現することができる。

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、見通しをもって作業に取り組むことに課題がある生徒が多い。 ・道具使用の経験不足による、効率的な道具の使用や片付けに課題がある生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、見通しをもって作業に取り組むことに課題がある生徒が多い。 ・表現技能が、イメージしていることに追いつかず、作品が未完成のまま諦めてしまう生徒がいる。 ・速い作業を得意とし、完成させることで達成感を得ている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組む生徒が多い。 ・課題に対して、見通しをもって作業に取り組むことに課題がある生徒が多い。 ・表現技能が、イメージしていることに追いつかず、早い段階で作品の質の向上を諦めてしまう生徒がいる。
指導上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを分かりやすく短い時間で示すことで理解できるようにする。 ・振り返りの質を高め、習慣的に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを分かりやすく短い時間で示すことで理解できるようにする。 ・振り返りの質を高め、習慣的に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の取組時に造形的視点を意識できるようにする。 ・表現に工夫を加え、よりよくする意欲と自信をもたせる必要がある。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・共通事項を大切に、造形的な視点を意識できるようにする。 ・鑑賞が発想や構想と連動する授業構成にする。 ・ワークシートで振り返りの時間を確保し、見通しをもって取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げるために、学習者用端末を資料として活用できるようにする。 ・造形的な視点を示し、その視点から自他の作品の鑑賞を行う。 ・鑑賞が発想や構想と連動する授業構成にする。 ・ワークシートで振り返りの時間を確保し、見通しをもって取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げるために、学習者用端末を資料として活用できるようにする。 ・造形的な視点を示し、その視点から自他の作品の鑑賞を行う。 ・ワークシートで振り返りの時間を確保し、見通しをもって取り組むことができるようにする。
指導面	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確に示し、理解できるようにする。 ・準備、片付けを効率化し、作業時間を可能な限り増やす。 ・ワークシートに授業の振り返りを記入することで気づき、質を高める。 ・学習者用端末の利点を生かした鑑賞授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確に示し、理解できるようにする。 ・準備、片付けを効率化し、作業時間を可能な限り増やす。 ・展示発表により造形的視点から良いところや工夫点に気付くことができるようにする。 ・ワークシートに授業の振り返りを記入することで気づき、質を高める。 ・学習者用端末の利点を生かした鑑賞授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を広げ、イメージの明確化を図るための学習者用端末資料を活用できるようにする。 ・自作品の解説をすることで客観的に作品の鑑賞を行うことができるようにする。 ・ワークシートに授業の振り返りを記入することで気づき、質を高める。 ・学習者用端末の利点を生かした鑑賞授業を行う。

評価

- ①授業アンケート結果による達成度評価
- ②定期テスト観点別学習状況による評価
- ③学習プリント及び作品